

# 石川高等学校創立 90 周年記念式典 福島県高等学校長協会長祝辞

平成 25 年 10 月 26 日（土） 10 時  
石川高校体育館

ただいま御紹介いただきました、福島県高等学校長協会長をこの 4 月より務めております安積高等学校長の久保田範夫でございます。県高等学校長協会を代表致しまして、お祝いの言葉を申し述べます。

福島県立石川高等学校の創立 90 周年を心からお祝い申し上げます。

（また、本日、感謝状・表彰状を受賞された皆様に、重ねてお祝い申し上げます。）

本校の前身となりました福島県石川実科高等女学校が創設された 90 年前の大正 12（1923）年に目を向けてみますと、9 月 1 日にあの関東大震災が発生、井伏鱒二の小説『山椒魚』が発表され、作家の司馬遼太郎さんや俳優の三國連太郎さんらが誕生し、御存命の有名人では、英文学者であり言語学者の外山滋比古さん、小説家の佐藤愛子さんらが、この年に誕生しています。（ちなみに、この年の 10 月にはウォルト・ディズニー・カンパニーが創立されましたが、ミッキーマウスが登場したのは、それから 5 年後の昭和 3（1928）年ですからミッキーは 85 歳ということになります。）

さて、私は、新採用の、雪が 3 メートルも積もる只見高校時代から現在まで、新たに赴任した学校では真っ先に校歌を覚えて歌えるように心がけてきました。それは、校歌の歌詞にその学校の創立以来の校訓や精神、スピリットが込められていることが多いからでありますし、また、校歌を声高らかに歌うことによってその学校と生徒を好きになれるからであります。

今回、石川高校の校歌を拝見して、なるほどなぁと思いました。と言うのも、石川高校の校訓は、「**自律・進取・信義**」、即ち、自分の規律・ルールに従って行動する**自律**、積極的に新しいことをしようとする**進取**、約束を守り義務を果たす**信義**と聞いておりますが、その言葉が見事に校歌に盛り込まれているからです。

校歌の 1 番には、「**自律**の気風 うけつぎて」とあり、2 番には、進取という言葉はストレートには使われていませんが、「**進む**科学に **新しき**光をかかげ」とされ、3 番には、「**信義**に篤き 友集う」とうたわれ、「**自律・進取・信義**」の校訓がしっかりと歌い込まれています。

私事で恐縮ですが、ここ石川の地は、妻が石川養護学校に勤務していた関係で、昭和の終わり頃の3年間、大室の学法石川高校体育館の裏に住んでいたことがあります。町中の川沿いの桜の見事さには圧倒されましたし、校章にもデザイン化されている菜の花の可憐さと、ピンクと黄色のコントラストが何とも言いようがないくらい美しい、文字通り豊かで穏やかな自然に恵まれた地域であると思います。旧石器時代の約1万5千年前から人が住んでいたことが確認されていると聞いていますが、大昔から人が住みやすい土地であり、和銅6年(713年)には、朝廷に石川産の雲母、白石英が献上されるなど、非常に古い歴史を持っています。

石川の地は、ただ古いと言うだけでなく、まさに「進取」の気が漂う土地柄であつたと思われ、皆さん御承知のように、明治8年(1875年)、三春藩士であつた河野<sup>こうのひろなか</sup>広中は、現在の田村市常葉町の副戸長から石川町の区長となり、石陽社を設立して東北地方の自由民権運動のさきがけとなつたのであり、また、明治25(1892)年には福島県で最初の私立学校である学法石川高校(石川義塾)が創立されています。

東日本大震災後の、福島県にとっても大変厳しい時代を生き抜いていかなければならない皆さんにとって、石川の地そのものが「進取」の雰囲気にあふれているということは、非常に頼もしいことであり、また、ここ石川でかつて学んだ卒業生の皆さん、そして今ここで学んでいる生徒の皆さんにとっても大変意義あることと考えます。

改めて言うまでもなく、大正12年の学校創立以来、昭和24年に初めて男子の入学が許可されるまでの28年間、本校は女子だけの学校でした。その後、平成の時代を迎えると、男子生徒数が女子を上回る年もあり、男女比はほぼ半々になるのですが、共学化以降昭和63年までの約40年間の卒業生の男女比は、男子が1885名、女子が6961名で、ほぼ20対80で、圧倒的に女子が多い学校だつたことが分かります。ちなみに今年度は、全校生約300名の内、男子が約160名、女子が140名となっていますが、いわゆる団塊の世代が高校に進学し生徒が大幅に増えた時期の昭和40年には、6学級330人(55人×6)の募集定員でしたので、その頃は約1000人近い生徒が石川高校で学んでいたということです。

こうしてみると石川高校は、初めに女子校時代、次に共学化したけれど女子が約8割を占めていた時代、そして平成以降、男女比の差が小さくなっていった時代、の三つの時代・時期に分けられるということになりますが、このような変遷を辿つた高校は、県内でもそう多くはないと思います。このような変遷があつたということは、石川高校が果たす役割、特に地域・地元における役割についても、90年の歴史の中で変わってきたのだろうと見ることはできますが、一人ひとり

の進路希望を実現し、目まぐるしい社会の変化に対応して生き抜く力を身に付けて社会に出て行くという、謂わば高校教育の根幹に関わる部分については、いつの時代も変わらずに石川高校の教育の中心を貫いてきたと私は考えています。

本校の卒業生は14,000名を超え、国内外の各界で活躍していると伺っていますが、その先輩の方々や進取の気性に富む地域の皆さんが見守ってくれています。そして、何よりも面倒見のよい先生方が導いてくれます。

石川高校の生徒の皆さん、校歌にもうたわれる**自律・進取・信義の校訓**を常に意識し、現状に満足することなく、夢を見つけ、その夢に向かって、充実した高校生活を送ってください。

長くなりましたが、お祝いの言葉といたします。

本日は誠におめでとうございます。